

山中だより

山中 してもらう
キャッチ させられる人から
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第7号

発行 令和元年7月1日 校長 交久瀬 善浩

◆◆生徒総会◆◆

6月11日(火)の6時間目に生徒会主催の生徒総会が行われました。生徒会役員がこの日までに準備を進め、各クラスで協議し、要望等も集約した上でこの日の議事を進め、スムーズにととてもよくまとまった生徒総会となっていました。



◆◆研究授業実施(数学科)◆◆



6月12日(水)の2時間目に数学科の研究授業を実施しました。本校では、校内研修や教科部会を中心に、グループ学習を活用した授業の研究を進めています。

◆◆教育実習生の研究授業◆◆

5月後半から本校に実習に来ている先生の研究授業を6月13日に行いました。実習の締めくくりとなる研究授業でしたが、実習生はととても落ち着いて、頑張っていました。よく考えたまとまった授業が展開できていました。

◆◆3年生大阪府のチャレンジテスト実施◆◆

19日(水)に3年生が大阪府のチャレンジテストを受けました。途中諦めてしまっているように見受けられる人もいましたが、全体としては頑張っているように感じました。このテストは、高校を受験する際の3年生の学校内の評価の数字を左右するテストなので、結果が気になります。このあとも3年生は、実力テストなどテストが続きますので、気を抜かずに精一杯頑張らしましょう！

◆◆1・2年生は、非行防止教室を実施しました◆◆

19日(水)の6時間目に非行防止教室を実施しました。少年サポートセンターの方に来ていただいて、非行の防止に係ることをさまざまな角度からお話しいただいたのですが、生徒たちは真剣に聞いていました。

山田中学校は、今とても落ち着いた良い状態が続いています。過去に後戻りすることなく、このままの状態が維持発展できるよう、生徒一人ひとりの自主性・主体性を育てる取組みを進めたいと思います。



◆◆学年授業研究実施◆◆



本校では、教職員の授業力向上のために、研究授業週間を設定しています。これは教職員が授業の無い時間を利用して、お互いの授業を観察しあい、参観シートという評価シートを記入して、授業者に伝えるというものです。この取組の仕上げとして、6月20日(木)に1年生は2時間目、2年生は3時間目、3年生は4時間目に学年授業研究の時間を設定し、それぞれの学年の教員が可能な限り授業観察を行い、放課後に研究協議を行いました。放課後の研究協議は、なかなか熱の入ったものとなりました。写真は、2年生の研究授業の様子です。

◆◆2年生は救急救命講習を実施しました◆◆

6月20日(木)、2年生は、救急救命講習を保健の授業の一環として実施しました。女性消防団の方の全面的な支援により、2年生3クラスを2クラスと1クラスに分けて、1時間ずつ計2時間に渡って講習を行いました。生徒たちは7~8人のグループに分かれ、そこに女性消防団の方が一人ずつついて、指導してくださいました。前半はAEDのDVDを見ての講習で、後半は実際にAEDを使っただけの実地講習でした。生徒たちはみんな真剣に講習を受けていました。



将来、彼らが大人になった頃には、ご高齢の方の割合がかなり高くなることから、必ず役に立つ訓練になったと思います。彼らが今後も継続的に訓練を受けて、忘れないようにしてくれればと思います。

◆◆期末テスト1週間前の放課後学習会実施しました◆◆



本年度、昨年度まで取組を行ってきた放課後学習会のあり方を枚方市教育委員会が見直し、別の取組をスタートさせる方向で今動いています。これとは別に、本校では定期テストの1週間前に集中的に学習に取り組む、テスト1週間前放課後学習を実施することにしました。その取組みの第1日目が本日、6月20日(木)の放課後だったのですが、急な呼びかけになったにもかかわらず、予想を上回る生徒が参加し、熱心に学習に取り組んでいました。放課後学習会の担当は、加納先生です。加納先生は、すでに社会科の教員免許を持っていますが、それ以外に体育科の免許も取得するために大学に通っています。ですので、放課後学習会だけでなく、放課後の体育系クラブ活動全般(特に安全指導)の指導もしてもらっています。

◆◆避難訓練を実施しました◆◆

6月28日(金)、期末テスト終了後の4時間目に、避難訓練を実施しました。今回は、地震のあとに火災が発生したという仮定での訓練でした、避難開始からグラウンドに全員が出て、人数点呼し、全員の安全を確認するまでに約3分30秒掛かりました。全体的に1年生から3年生まで動きが機敏で、静かに落ち着いた行動が取れていました。

実際に大きな地震が発生した場合、余震が連続して発生するので、このようにスムーズにはいきません。ガラス等が破損して落ちてくることなども想定されます。また授業中ではない時間帯に派生した場合、教員の指示がその場で出来ないことから、更なる注意を払いながらの自主的判断と機敏な行動が求められます。その点も配慮した訓練も必要と考えています。



また、子どもたちは家にいる時間の方が学校にいる時間より長いので、地震が家にいるときに発生したらどのように行動するか、また家の中ですぐに倒れるような固定されていない家具などが無い点検し、逃げる方法や経路、避難場所等についても、家族で話し合っておくように話をしました。

近い将来、発生すると予測されている南海・東南海トラフを震源とする大地震や、最近頻発している豪雨等々、予測される災害はたくさんあります。校区を流れる穂谷川も絶対に氾濫しないとは言い切れません。昨日のNHKスペシャルでも、避難するタイミング(避難スイッチ)の話題が出ていました。「自分の命は、自分で守る」。限界状況では、自分の命は自分で守る以外方法はありません。

自治体からの避難指示や勧告は、市内すべての各家について細かく出せるものではありません。家族構成や各家の状態、家の周囲の状況(土地の形状や地質、地形等々)はすべて異なるはずで、それらをすべて判断して、いつ、どのように避難するかは、それぞれの家庭で考えねばならないことです。

「してもらおう させられる人から する人へ」の究極のものが、「自分の命は、自分で守る」です。自分の命を守るため、日頃からしっかりと自分で考え、自分で判断し、自分で行動する姿勢を育てておきましょう。これは、自分の力で自分のなかに育てなければ、育てることは出来ません。自身で頑張れ!!!